永　福

令和６年１月３１日
杉並区立永福小学校

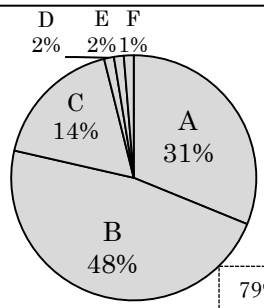
杉並区「教育調査」へのご協力ありがとうございました

教務主任

昨年末にご協力をお願いしました杉並区「教育調査」アンケートの結果をまとめました。１５４件のご回答をいただきました。お忙しい中、ご協力をいただきありがとうございました。本調査から見える成果や課題について、考察をいたしましたのでご覧ください。本結果は区教委をはじめ、学校運営協議会にもご報告させていただきます。

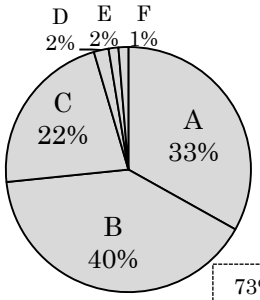
お寄せいただいた回答を円グラフにまとめました。各グラフの右下枠囲みの整数（四捨五入値）は、肯定率の合計ポイントを示します。肯定率とはグラフ上のAとBの数値の合計を指します。

Q1　子どもは、授業で学ぶことにより、毎日の生活を、自分でよりよくするためにできることが増えている。



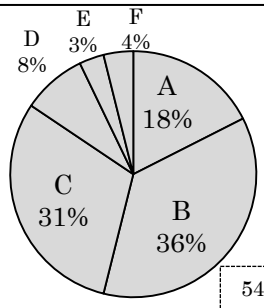
79%

Q2　子どもは、学校でみんなと一緒に過ごすことによって、社会を、自分たちで変えるための知識や考え方が身に付いている。



73%

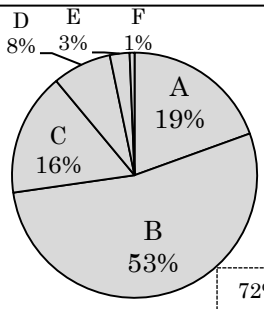
Q3　子どもは、学校で障害者、外国人、性的マイノリティ等の人権に関する多様な価値観について学んでいる。



54%

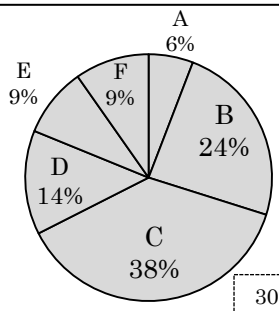
◎評価の観点◎
A：とてもそう思う
B：ややそう思う
C：どちらとも言えない
D：あまり思わない
E：まったく思わない
F：情報が十分になく、回答できない

Q4　学校は、子どもが自分の興味や関心に基づいて学んだり探究したりできるよう、家庭、地域、民間の団体や企業等と連携している。



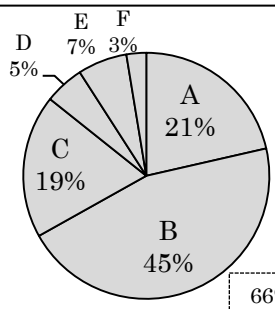
72%

Q5　連携する小・中学校による小中一貫教育（小・中学校の教員による協働授業、児童・生徒の交流など地域活動への参加等）が進められている。



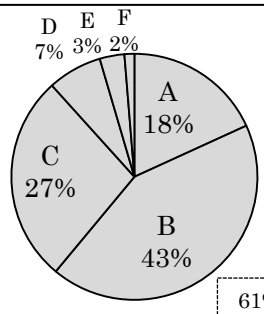
30%

Q6　子どもは、児童・生徒1人1台専用のタブレット端末や学習eポータル、様々なデジタルコンテンツを、自分の学びや生活の必要に応じ、選択して活用している。



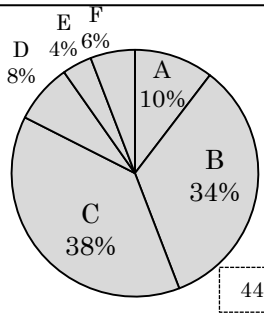
66%

Q7　学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫がなされている。



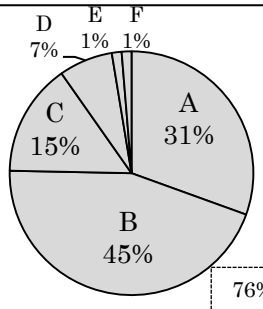
61%

Q8　学校は、いじめを絶対に許さないという雰囲気がある。



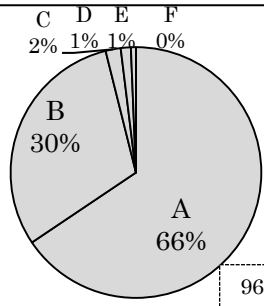
44%

Q9　学校は、子どもの日常の学びの状況や評価方法について、参観、面談、HP、お便り等により充分提供している。



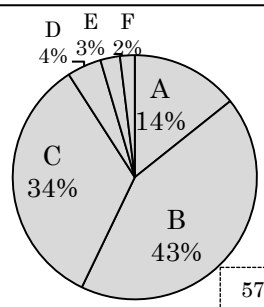
76%

Q10　学校は、欠席等連絡、お便りの配布、アンケートの実施のオンライン化が進められている。

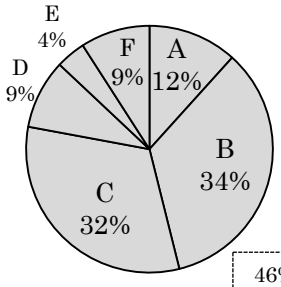
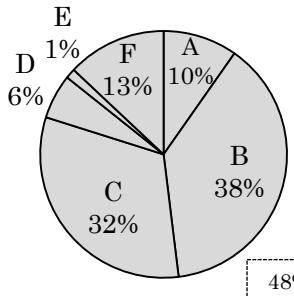
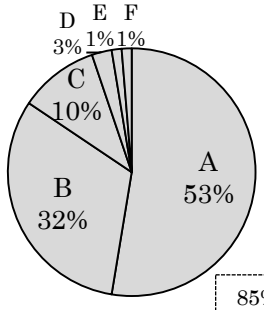
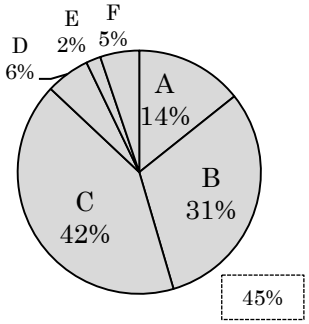


96%

Q11　学校では、教職員、他の保護者、地域の方等とかかわり、子どもの成長や学校生活について考えたり話したりすることができている。



57%

Q12 子どもが人間関係や自分自身の心の問題で悩んだとき、学校は、その解決を、きめ細かに支援してくれている。	Q13 学校は、通常の学級や特別支援学校、特別支援学級の子どもが相互に交流したり、一緒に活動したりする機会をつくっている。	Q14 子どもは、学校生活を楽しんでいる。	Q15 学校は、児童と幼児の交流、保護者への理解啓発等、幼児教育から小学校教育への円滑な接続を意識した取組を積極的に行っている。
 46%	 48%	 85%	 45%

考察（成果と課題）

Ｑ１では、肯定率が約 80%となりました。児童が主体的に学んでいる姿を高く評価していただいた結果だと受け止めています。

Ｑ３の人権教育についての項目では、肯定率はおよそ 50%となりました。各教科や道徳、総合的な学習の時間等の学習全体において、また、大塚ろう学校や永福学園との交流、手話教室などの体験活動の中で、人権に関する教育を行っています。しかし、学習した内容がなかなか見えづらかったり、学年によって活動の差があったりします。人権教育につきましては、学校だより等でお知らせしたいと思います。

Ｑ５とQ15 は、連携する小・中学校による小中一貫教育と、幼児教育と小学校教育の連携に関する項目でしたが、肯定率が 30%と 45%と低い数値となりました。しかし、昨年度の教育調査における同様の内容についての項目では、Ｆ評価（情報が十分になく、回答できない）が、20%を超えていましたが、今年度のＦ評価は 10%程度となりました。小・中学校や幼稚園・保育園と連携して行っている活動につきましては、今年度は学校だよりの「永福小の窓」にてお知らせしています。活動内容は十分にお伝えすることはできましたが、来年度は更に肯定率が上がるように、活動の成果もお伝えしていきたいと思います。

Ｑ６では、児童のタブレット端末の利用についての項目ですが、肯定率は 66%と昨年度の教育調査における同様の項目とほぼ同値となりました。今年度は、児童がタブレット端末を「自分の学びや生活の必要に応じ、選択して活用している。」というアンケート内容になっています。「杉並区 教育ビジョン 2022」の中に、タブレット端末活用の段階として、「導入・充実・変容・創造」の４段階が示されています。学年にもよりますが、現在令和５年度では、活用段階が「導入・充実」から、「変容」そして「創造」に入っている児童も多く見られます。今後、タブレット端末が、鉛筆やノートと同じように、新しい文房具として、「必要に応じ、選択して活用できる。」ように、活用を推進していきます。

Ｑ８のいじめに関する項目と、Q12 の児童の心の悩みに対する項目では、どちらも肯定率が約 45%となりました。教員は、日ごろより児童の声に耳を傾け、児童理解に真摯に努めています。また、年３回「ふれあい月間アンケート」として、いじめに対する調査も行っています。その調査の内容により、児童に直接聞き取りをしたり、校内で「いじめ防止対策委員会」を組織して対応したりしています。児童の様子を細やかに見取り、これまでの取り組みをさらに充実させ、指導・支援を行っていきます。

Q10 では、肯定率が 96%と高い評価をいただきました。これは、10 月から始まった学校・保護者連絡ツール「ｔｅｔｏｒｕ」の運用が、評価されたのだと思います。「ｔｅｔｏｒｕ」は、児童を介さず直接保護者の皆様に、学校から連絡を届けられることや、簡単な操作で欠席等の連絡を保護者の皆様が学校に送れること等、利点が多くあります。引き続きご利用の程、よろしくお願いいたします。

今年度も教育調査のご協力ありがとうございました。今年度は、学校独自の項目が作成できず、直接ご意見を伺うことはできませんでしたが、学校では、一人一人の子供を大切にするのと同様、皆様の一つ一つのご意見も大切にしていきたいと思っております。学校に関するご意見があれば、お知らせいただければと思います。今後とも子供たちの夢が実現するよう、日々の教育活動を進めて参ります。引き続きご協力とご理解をお願いいたします。